治流通記

拾參

ハ 13
3299
13

谷穣榮

海津流源宗軍記巻之七 之二

目録

一 浜野弟右衛門尉高吉と申す事
并弟右馬頭殿くぬぎの事

一 武蔵守殿御屋敷の事
并由良の新子の事

大正十年八月廿九日寄贈
本大學圖書館

門へ13
3299
巻13

源津琉球軍物語巻之拾二

清国より御ゆるし言葉の事

并琉球清国へ使者の事

孔蛇浦の口より中城へ入り給ふ事

うるまそのよの流をしのぎ敗走

せしうへ軍ぶ仕り給ふ時灯明

無数仕りつれん討死者数

しの歌の首数注進の事

正しかる所に朝敵の士卒がしも
九州[illegible]朝敵が首[illegible]
朝敵が[illegible]討ちる首[illegible]三種[illegible]
[illegible]
[illegible]臨て実[illegible]して[illegible]
[illegible]朝敵[illegible]
[illegible]士卒[illegible]日[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]十軍師の[illegible]
もつとも[illegible]朝敵の[illegible]
[illegible]
[illegible]日本[illegible]
[illegible]士卒[illegible]
[illegible]
[illegible]朝敵[illegible]

ありし乱蛇浦よりはぐくの高城りく
しまんとすせてりしが林道をを
文禄松島むらさ千城郎あて要害
りくさ人婦せし由よの男の、よのし
中将あり、八郎七郎九郎
しかも母へんとあでりく月意候
あしれれども船くのへて安寺をて
しまん西塔松原の城候うち

ありて恵子し高城小いさんとありし
しかで常り崎んて立くたの京候
山際候のさんで平くしろれど御の筆
三好左近沼田つた源つ日人くもうひ
筑後中務の山際小野りし志まり
小いそぎのつていらずる出雲得や
とよろねのへて常り小川ちやし
打ひとしひいまぐ御ま秋がん庵候

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神まつる日波おだやかなる成功と海
ぶ[illegible]ものしるべきこと
うらぶ国を国のようにして
波ぶかくはつるものなれども
人をの命ゆしして軍師をもうせ
うつるべ[illegible]初つ[illegible]
神ぶ[illegible]て革命ゆくたの
[illegible]ふ[illegible]

[illegible]の業ゆうぶ海
初日国うぶ神を人の功ゆ
ありていよ[illegible]国政ゆも
うをぶ豊に人ぶ人まで海ぶ
功績うゆまし百事をせのうんを
[illegible]ぶ[illegible]武部ゆ
忠のゆの小ぶ非道ゆ海事
ゆうまぶ富まうゆまで

おもひやり生じゆんきはやく居て発明に
見えぬるは人心いやしへよりまさり
おもし武蔵野の国ころ流る数りくけの里
おもぞ端息も事なくつまあの風為
よ絵しかいたに大部之ほひ神ぶ楽
こゝをにせいせんへもるゝも却る
波ゝ膝難かくてうれもおり光を
やおきんはしいへ此義又り此方神些事

さもいひし王様めのつやもし大切に
立ゝ死ゝ付ぞ甘のりは老人の切
よあらぐしして自然やいりく清の事
はゐきしし是国恩の節中してい也
ゝ私のゐみほしく善雑しをおくびし
出生りを多文今しかし思ひ知れ
今やし彼がおる事し徳が宝くけりん
神の事彼がこそいうあそんぬる

りやうぶしくあれば此以後の
ためしにもひかるべしされば首尾忠義
をまもるとも心一和せざれば仕そんじて事
ならずして浪人の中より出来るもの有
去りしかども大星一統の手くばり引退
国の士もきゝしとも終にひとつにまとまり
家来がいはんやもさんげし立てゝいるもの
今更武勇をあらはし人事實

士の本意ゆへんく是ハ討
死せし人々後世までも名を残し
ありしてみなみな一統の横
四十六人の中にも見かけ心ざし
此ものども只に義を人忠をつくして
討死しての後も今に遠ひ
しぬもいけりして敵のためにおぼえん
志すべし此家ハいはず忠義も氷の

ゆゑとかや佐野の幾郎も仁道絶けん
じやうよふましきゆもけふじんじ継る
時も先祖への御奉公も死後まで
名跡のこしたまへ彼女のたづる
所よりもやつれにやの母子しく武蔵守
よのとして源の六郎と有るからく
じも忠功と御伝しげく八幡と事
まし志つるに転じ今討死なすて

国家の政務にしてやおかづら武蔵守殿
く利とけ給へかの者ともまけとく彼に
志つうすやしきの世ては敵すくれ
郎の忠勤し忠義まりてきようふた
はけひしなし有なる事にては継く
はひ思へ思ひやうしきれしかる屁と
ゆんかんもと当力すてに有なきやれ
も親わり忠義をなしつるゆゑなる

しかし御兄弟(ごきやうだい)にて安住(あんぢう)して扇(あふ)ひらく
事(こと)あり今(いま)討死(うちじに)せらるゝて武蔵守(むさしのかみ)ならく
利(さと)御候ける由しかれども実(じつ)は御家(かうぐ)
長久(てうきう)のたゝかひなりそのゆへは世上(せじやう)の
評議(ひやうぎ)由しれ沙汰(こうご)しかれどものあはれなり(ひとつて)
まづてゝる由ありしてり法律(しきつ)の為(く)に
て御(これ)由し一勝(ろうじ)に二度の兵(ひき)あり(しよう)しかりく
これゆへまかりてき事(こと)もゆへなりけんや

ゆへそれ前(ときに)有家(りゆうけ)もしこそかうかう
是(これ)思(うち)ありてこれ(これ)さして利(り)御もと
て其(それ)討死(うちじに)せずして武蔵守(むさしのかみ)と人とありて
ゆへそれ事にありしめへしかんと静謐(せいひつ)
ありたし又御兄弟(まくくれし)これのゆへに武蔵
やう先陣(やんび)候候に参りて兼ねて候(きしん)候生(やし)じ
弟(こ)かくして御奉公(ごうめく)相続(さうぞく)さすべし
左(さ)ゆへして子孫(しそんまで)とも恨(うらみ)となしき

らんの誠(まこと)をつくしおしかるに主人(しゆじん)の最期(さいご)
あまりの大事此(この)うへとぞんじ候へば
さりとおもひて実(げ)に我(かれ)討死(うちじに)して
国家(こくか)の静謐(せいひつ)を主縁(しゆえん)のしめしとして
忠孝(ちうかう)ともに全(まつた)くれけるかひもなく流
浪しける此(この)当へ入り我(かれし)乳(うんしゆい)沙汰
く討死(うちじに)せよと言(こと)あるれ我(わが)心(こころ)ざちう
御座なくゆへ候はばしき究(さく)

頭(こ)とかなしんや我心(わがこころ)はしてに変(へん)せり
御とひしきもる事あるれしも悲恋(ひれん)
もさつくしくく利害(りく)ともしくとまで
おもしみかれ御信(ろうちう)中道理(ぶくしと)
せめてのかさしかしくとべき涵(てんじ)おもく
委細(いさい)述(うけしたまは)りおりて名(おりて)御体(きゆう)のていふ
まだもはせ今まで主人(しゆじん)と共(とも)に討死(うちじに)
せんもん申に在(しんちう)志(こころざし)するとも御なれ

あり筆跡もことに御所方の中に
宮殿の書簡類にも見えず
しけ衛の経文の文字中にもあらず
ぬるもの稽古和歌をも出しにせ事も
のあしらいいんにゆ郷の七草の中
りよく百姓らしき花筆のものがたら
み云人にもふへ童子も師匠とつい
御ろんなしに筆の御染はいつかん紫式部

て此の世にも出して進上したりや
書簡せぐむらしし思出見え事書なり
けりつりゑし書付て見えるねんご
ことにもきえ人のいひし遊びもて分かち
此てしもまへの世の細道けりわく
芝のひもたりときわりとも逆く
此中に自分のまもめて古く書きそで
筆わけ書をあへしは此國のもの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と発るとて[illegible]三拾貫文
もはべりしかども[illegible]の[illegible]
[illegible]の合はせて三風門とやらん
[illegible]十貫もちゆく
[illegible]向しるしん中
[illegible]地利の[illegible]
[illegible]に彼ぶかり遣はば
[illegible]

[illegible]元年[illegible]の
事なのべて布[illegible]士卒にたりて
[illegible]陽[illegible]中
[illegible]
[illegible]
[illegible]風つたえ[illegible]
[illegible]

并陳龍子白鹿の竹と隣馬敵に用る事

偖も軍師武蔵守も上虎竹城を
の後乱蛇浦へ心ざし直に諸勢
引率して翌月十日の暮に乱蛇浦
に着けれども程なく大膳只今の
勢ひの程を敵は是のかたの討死を顧
生捕りまして書付して委細
あらかじめ申しけれども武蔵守も細見

して龍虎の陣を布て敷と予々
公山菩薩討とりし事も悟りぬと
書置し候所ありと申しける九律林
と生捕りし者申しけるは只今
事ども数多ありとて此旨を言上す
の様子を見とりければ此のしやうき
常に何方へ行きけるも敵をかれども
程なく嶋大膳されども今日の金銀中の

胡(?)し落着しりく佐野の常世か

恙き事なりし近江の能(?)登守

も討死首も十文字にさせ給ひ

御そいましき御事なれどもやがて

河(?)小次郎ぬまで定めて今や御ゆるし

おもしろくもさらみき(?)ゆへ逃げし人の

波(?)きや金銀事もなむ(?)ゆるし給

も知られ陣中の風俗ものもし生(?)へ

の蔓(?)寄(?)城志ぬけ/\せしより元

も多勢にしられ芸(?)ありぬれど武家の

志ざしふかくしてい(?)目附けの事ま

しかしながら三部(?)の武藝(?)の一書を

ねけ(?)けるゆへさだめるべきに常からの

討死のうるおる(?)へし次の兄より男(?)武(?)

壮の武士なりし其(?)時とに勝なきなき

身なりけり御(?)家師(?)ゆるせしなり

こそ[illegible]と[illegible]ん事[illegible]と言[illegible]くわりし
[illegible]功[illegible]の[illegible]日[illegible]討死せんとの事
[illegible]ん[illegible]死[illegible]せんでいうた[illegible]の
[illegible]ことの[illegible]ぎさせ[illegible]事[illegible]仰[illegible]て
仰[illegible]の時[illegible]ん[illegible]道理のうえ
[illegible]思[illegible]せ[illegible]ん[illegible]死[illegible]せむ
[illegible]海[illegible]も功[illegible]方[illegible]ぎ[illegible]ん[illegible]ち[illegible]と
[illegible]死[illegible]事[illegible]ば[illegible]ぐれ[illegible]ぐ[illegible]

いとも[illegible]進[illegible]ん[illegible]そ[illegible]ん[illegible]
いとも[illegible]ん[illegible]今一[illegible]の[illegible]部[illegible]有[illegible]も
手[illegible]て[illegible]害[illegible]ま[illegible]不[illegible]ん[illegible]
[illegible]宮[illegible]ん[illegible]中[illegible]仰[illegible]申[illegible]る
の[illegible]ぎ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ま[illegible]ぐ[illegible]ま[illegible]
[illegible]ま[illegible]ん[illegible]ば[illegible]ま[illegible]
[illegible]ば[illegible]ん[illegible]ま[illegible]
[illegible]ん[illegible]ば[illegible]

そこ〳〵少て惣軍勢引そろへ城を
攻寄まとり〳〵に成
松平の城めして東へ渡播磨軍師
中義弘のゆしみの軍兵とともにて
居るゞ和軍孔明浦攻寄りゝ
ゆ〳〵そろへ播磨中義弘はまひき
和兵衛ゞ勢しのゝ世へ
輝元の書ゞ見下いるる度

ゝ新田城へ攻入べきと評議あれど
中義弘ゞいゝ和軍元事出陣の事
明大てゝ和軍ゞ要害の
地ゝて変て油断とはなきば
陣さゝ軍事中あれゝの先あ
ゝ和ゝ備前ゞ帰ゝ
ゝて下ゝの城部ゞ行ゞされゝ
城をゞ出ゝ要害の城ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くらゝ[illegible]
のちゝ[illegible]
[illegible]
せ[illegible]
つゞ[illegible]
[illegible]
[illegible]
中に[illegible]

[illegible]
うは[illegible]
のゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

四月八日家人さんぐの法華堂
をかまへて乳母浦と同の日利
寺をたてゝ出羽院より五郎の四
郎殿を法華をいまゝで
乳母浦の御ゝ堂の道
場をたてゝ野原をかまへて第六
番目の法華をいとなみ
乳母をもつて義の勝場をす

うゝ出羽の法華堂を一番に建
らんゝ法華堂を三番に
ゝ武蔵殿を法華堂
事のこゝろ申しいとゝ
ゝ出羽の名をゝ
らぬ一向に知ぬ
ゝ一所より出
第四番に攻ゝ

しが日ひろく地利の益海陸
面をあつめ諸国の産物知るべき
ようなれども
[illegible]
ゆゑに宮道より
あらん物さくもつくべきの道あれば
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まで見る事はなく野山もち
山さとも川よりとうづつ
の色と見へうるとしの春
しの眼のかぎりの春のまんとまる
のていのかぎりハ四方
も今更なるかぎりなきまで見
の色ばかりにて雪ばかりまよ
ふる山ばかりにてかの

ごとくの大家はいうにおよばせざる
て事なるべし一同
四方のかぎりもちもち
んとのうづとしてさらに仙
して第歌こゝろ
ばかりまなびなる人いさゝか
仙もこゝろせんとの大家は見て
ともひとのこゝろ酒宴ばかり